

競技内容

ここ2年、対戦するロボット同士が別々のフィールドで戦う、「非接触型」のテーマが続いていたが、高専ロボコン20周年の今年採用されたテーマは「ロボット騎馬戦」。8m四方の平らなフィールドを舞台にした、ロボット同士による5本の旗の奪い合いとなった。

旗を奪うために、単なる接触はもちろん、相手の旗を取りに行った結果であれば、転倒させても反則にならないという、これまでにない豪快なルールだ。エンターテインメント性を強調したように思えるルールだが、ルールブックの競技概要には

『走る、つかむ、耐える…騎馬戦にはあらゆる機能が要求されます。なかでも、「ものをつかむ腕や、ぶつかられても壊れない耐久性は、救助ロボットや介護ロボットで最も注目されている技術です』

と記されているように、競技委員会が意図したものは少し違ったようだ。

結果としてはラフに見えるぶつかり合いが増え、勝ちを求

めるロボットが台頭していたように思えた。多彩なアイデアを見たいという人にとっては、少し残念な結果になったかもしれない。



富山高専「TRA」対福島高専「機馬」。旗に向かった結果であれば、ここまで激しくぶつかったも反則ではない。

和歌山高専「紀州軍団」対松江高専「Extender」。「紀州軍団」の“鯨”は「Extender」の下にもぐりこんで動きを封じようとしている。これもOK。



競技結果

機体もぶつかるが“意地”のぶつかり合いのような、激しい戦いが続出。倒されて場外に出してしまうロボットもいれば、押し合いでオーバーロードしてしまい、煙を吹くロボットも。

その厳しさを象徴したのが、北九州高専「くるぼん」と和歌山高専「紀州軍団」の決勝。3分間を戦って同点となり、サドンデスの延長戦に突入したのだが、「紀州軍団」の1機は期待に蓄積したダメージのために動くことができず、2対1で戦うことに。結果、「くるぼん」の勝利となった。

連覇を狙った詫間電波高専「Galaxy」は、「釣竿+網」という独特な腕を持った機体を投入して準決勝まで進んだものの、昨年決勝で降した和歌山高専との戦いで敗れ、涙をのんだ。

優勝よりも名誉とされるロボコン大賞は、サレジオ高専「二戦錬馬」。「馬」ロボットに「武者」ロボットがまたがるという「突出した遊び心に皆さんの心を打った（東工大名誉教授・森政弘先生の講評）」機体で、1回戦で敗退した（しかも地区大会でも1回戦敗退）ロボットが選ばれるという、異例の受賞となった。

ロボコン大賞	サレジオ高専「二戦錬馬」
優勝	北九州高専「クルボン」
準優勝	和歌山高専「紀州軍団」
アイデア賞	大分高専「ローリングばっちゃん GO!」
技術賞	詫間電波高専「Galaxy」
デザイン賞	富山高専「TRA」
風林火山賞	一関高専「金色堂」



アイデア賞の大分高専「ローリングばっちゃん GO!」。どの方向に倒れても起き上げられる。

風林火山賞の一関高専「金色堂」。

